

令和5年度第3回鎌倉市青少年問題協議会 議事概要

【日 時】 令和6年 3 月 28 日 (木)、10 時 00 分から 12 時 00 分まで

【場 所】 鎌倉青少年会館 研修室 (小)

【出席者】 敬称略

(1) 委員 11 人

別紙名簿のとおり。

(2) 事務局 3 人

小林青少年課長、田中担当係長、下釜職員

【資 料】

- (1) 青少年問題協議会委員名簿
- (2) ガバメントクラウドファンディング (チラシ)
- (3) 鎌倉青少年会館リニューアル概要
- (4) オープニングイベントダンス・バンド募集チラシ

【議 題】

- (1) 令和6年度「青少年の居場所」計画・予算について
- (2) ガバメントクラウドファンディングの開始について
- (3) 鎌倉青少年会館リニューアルについて
- (4) フリースクール補助金事業の現状について

【概要】

(1) 令和6年度「青少年の居場所」計画・予算について

『わかたまの拡充』、『ガバメントクラウドファンディング』、『鎌倉青少年会館リニューアル実行委員会』、『鎌倉青少年会館リニューアルコンサルティング』、『青少年広場の整備』、『施設内整備』、『オープニングイベント』について説明を行った。

(2) ジュニアリーダーズについての説明 (下山委員より)

ジュニアリーダーズの年齢制限を上げたことで、活動の自由度を広げるにあたり、今まで青少年指導員が活動の管理を行っていたところをジュニアリーダーズ単独で意見を持ち自信をもって活動ができるよう運用を変えた。市と連携して進める。

(3) クラウドファンディングの説明

青少年広場にバスケットゴールとサッカーマークを設置する。期間は6月末まで。目標金額は300万。

(4) オープニングイベント、鎌倉青少年会館のリニューアルについての説明。

オープニングイベントは11月10日。イベントも実行委員方式で開催。各部屋の用途等について説明。

(5) フリースクールについて

令和5年度は88名の申請。その内訳としては、女性31人、男性57人、小学生が45人、中学生32人、高校生が11人。

(6) 国・市の政策について

「子ども・若者育成プラン」、「子ども子育てきらきらプラン」の両方を一体化して、「こども計画」として

進める。

各委員からのご意見、ご提案は次のとおり

【予算・計画について】

加藤会長：令和6年度の予算が通ったということで説明があった。今まで議論されてきた、わかたまを7月から増やす。鎌倉青少年会館リニューアルを実施しオープニングイベントが行われる。フリースクールの補助金は、神奈川県で初めてということで大変注目されて、私にもいくつか連絡があった。来年度120人に対象を増やすと書いてあるが、予算がついたということで確認してよいか。

小林課長：120人分で規模拡大し要求し予算はついた。不登校児童生徒数も増加傾向にあることから増えると予測して予算をつけたところだ。

加藤会長：現状それだけニーズがあるということだと思う。

【鎌倉青少年会館のリニューアルについて】

下山委員：「施設内の整備」に記載の調理室はどう利用するのか。野外炊事場利用で雨が降った際、調理室を使っている、コロナ禍で出来なかったが、今後増えていくと思う。

下釜職員：そのまま調理室として使用できる。特に改修はしない。調理室はほとんど使われていない現状がある。クラフトルームとして利用することを想定している。絵を描いたり、ミシンが買えたら裁縫など、軽い作業を想定している。

今回は運用を変えるにあたって、平日の16時以降というのは現在利用がほとんど無いこともあり、中高生の専用の居場所にしようということで進めている。地元の方と共存し、16時以降も事前予約が入っていればそのまま地元の方が使える。調理室に関しては地元の方の利用環境はほとんど影響は無いと想定している。

【クラウドファンディングについて】

加藤会長：こういう試みは鎌倉市、青少年課としてはやっていたのか。

事務局：青少年課としては初めてである。

加藤会長：初めてなのは凄い。色々新しい試みしていると思うが、今回市民の力を借りて『子ども達の居場所づくり』を作ろう！という事をこれでスタートさせるわけで、行政と市民一緒になって、あるいは若者が一緒になってということが大変素晴らしい試みで、これが始まり、成功して「わ！鎌倉凄いな！」となるかもしれない。

若木委員：深沢の区画整備事業の中に鳩スタがある。あれもクラウドファンディングやっている。鎌倉市のある企業がお金を出して作った。その場合、前にあるコンビニに大きな広告出したということを知った。今回は担当職員が「飲食店を回った」という話したが、コンビニとかそういうところに貼っていくと良いのでは。鎌倉市のサッカー協会などにも呼び掛けて、お互いに後継者を増やしていこうよという視点から働きかけるといいのでは。

市川委員：鎌倉市の広報は出ているか。

下釜職員：4月1日号に鎌倉青少年会館のリニューアルなど一緒に扱った記事が大きめに掲載される。

田中係長：クラウドファンディングだけでなく、居場所事業を開始しますという広報をしている。

加藤会長：青少年問題協議会も協力していった方がいいのでは。多くは集まるか分からないが、300万円が集まってこういう事が出来た！という事例ができて、「うちもやろう！」となるかも。辺鄙なところでも、子ども達の遊び場がないということでも、これに使おうとなって、鎌倉全体の、例えば青少年問題協

議会も応援してくれる、そういう風になってくるともっと活発に子ども達の居場所づくりが始まるかもしれない。各委員が所属の各団体などに、チラシを配ってもらって。優先するように声掛けてもらって、自分もしてくれるといい。ほかの方にも周知いただく。また、これは額は関係ないのか。100円とか千円とか単位があるのか。

事務局：すみません。どの単位までできるのかは手元に資料がなくわかりません。

加藤会長：個人払いで千円など、それが分かれば、幾つ位だったら私も出しますよ。など、一度二度でやるなら私も出しますよという人が出てくるかもしれない。今ここにいるメンバーは青少年関連で鎌倉で関わっている方たちが多く、チラシを何枚か欲しいとお願いしたらどうか。

下釜職員：PRをぜひご協力していただけたら。

加藤会長：子どもの育成に責任を持てる青少年問題協議会としても、各団体でお知らせいただく。

田中委員：学校で周知していいのであれば、データでいただきたい。

下釜職員：すぐメールで送る。

加藤会長：特に写真の松原君は中学三年生と言うことで。それはすごく今後も楽しみ。

若木委員：クラウドファンディングは運営会社に運営料金がかかる。また、特典を付けるところがあるが、今回は特典みたいなものを考えているのか。

下釜職員：こちらは『ふるさとチョイス』というサイトを使い、運用している。実際の運営費みたいなものは、財政課の『ふるさと寄付金』の担当が契約しているので青少年課からの費用の発生はない。返礼品は無いが、寄付金控除、税金の面ではメリットになっている。企業にお声掛けさせて頂く時には、事業のPRを市のSNSなどでさせてもらう事は考えているが、返礼品は無い。

下山委員：青少年広場でスポーツをするにあたって、若者だけでなく、大人も一緒にここで活動するにはサッカーはちょっときついかと思う。

若木委員：例えば、サッカーに似たようなミニサッカーなどがある。工夫をするといいのでは。

下山委員：そのような工夫で、大人も一緒に交わると、1階のフレンドリー（デイケア施設）も一緒にボッチャなどが出来るのでは。

若木委員：それだけでなく、タグラグビーなどもできるので、頭を使って色々するといいのでは。

下山委員：そういう選択肢もあると、大人も入ろうかというふうに思う。これだと「若者だけ」のように感じる。大人は入れないではなくて、一緒にやらないと成長が見込めないと思う。一緒にやれたらいい。

若木委員：まさにおっしゃる通りだと思う。

下釜職員：チラシの、「みんなのプレイパーク」の表現はクラウドファンディングをPRにするにあたって、広報とも連携を取るうえで、どういった見せ方の方が良いかという所があった。バスケットとサッカーを表に出そうという事で、今こういった広報のやり方になっている。勿論、施設の中の整備もあるので、ここだけが変わるよっていう見せ方が中々難しい所ではという議論もあったが、居場所づくりがメインではあるので、青少年の居場所という文言は残した。表現が難しい所はあるが、居場所づくりがメインで、地元の方は、勿論、予約すれば使えるので、大人の方も使えるよって言い方だと、だいぶブレるという事もあったので、今回は青少年の為の居場所の為に寄附を集めますというやり方で進めている。

下山委員：とりあえずいいとは思いますが。一緒にやろうよと思う。

加藤会長：青少年課が青少年会館の居場所に向けて動き出していますという広報にもなっている。学校でも家庭でもないもう一つの居場所に生まれ変わりますということで。リニューアル実行委員会の募集をしているという事と、バスケットとサッカーグラウンドをとりあえず作ろうと。やっていく内に市民から「こういう風に使いたい」とか「空いている時に使わせてよ」というのが出てくると思うが、それは実行委員会の中でまた取り上げていけば良いと思う。11月10日のオープニングイベントでダンス、

バンドバトルをする。とても良い企画ができたと思う。これを上手く活用し、青少年会館を青少年の居場所としてPRしていく。参加してくれてる生徒たちにもこのイベントを通して、学校以外の居場所ができる。

田中委員：予約の仕方は、どんな風に周知をするのか。せっかく来たけど出来なかったということが起きてしまうのでは。皆で自由にバスケットなどをやっている中に声をかけて参加するとか、そういうのも良いと思うが、中々そういったことが難しい子どもたちがいたりして、いつも行っても出来ないなどの状況にならないかが心配。

下釜職員：中高生に関してはふらっと寄れるというのがコンセプトで、無料で予約せずに来れる様にしたい。ただ、今も実際に使っている団体があるので、その方々は今まで通り3カ月前に予約して、利用する方法でいきたい。

そのPRは、今からやっていく事になるが、Instagramや旧ツイッターなどSNSを使用し、PRしたい。バスケットに関しては今から作るの、本当にふらっと行って、コートが空いていれば使っていくような形になる予定。サッカーの方は地元のサッカークラブが使っていたりする。練習で使っていると中々一般の方が使えないということが出てくることは懸念しているが、運用をやっていく上で調整していければと思っている。中高生の子たちは予約せずふらっと来られるという形を考えている。

田中委員：生徒たちが遊びで来るっていうのは良いが、部活でちょっと練習させてとなった場合、何時から何時までというふうになっていた方がいい。また、そういった使い方ができるのだろうか。グラウンドが利用できる時は、「今空いていますよ」という情報が出ていると良いと思う。その辺の情報をどういう風な発信を考えているのか。

下釜職員：サッカーコートは高校生にとっては小さいという懸念はある。ホームページの方で予約状況を更新し、後はツイッターやインスタでオープンにしていく。部活・学校で予約する場合は一般の団体さんと一緒に2カ月前、3カ月前に予約になる。

林委員：大前提として地域の方々にはこの進め方やこういう事になるよということを皆様ご理解をされての上でのお話でよいか。

下釜職員：よい。

林委員：今使われている利用団体などに対し、これだけガラッと変わったので、その時に良かったというような思いを持っていただかないといけない。町内会の方やこの地域の方、今後使われる方に対して、これからはこういう形になるということをもっとアピールしてから、色々な細かい所を進んでいかないと、「今まで使ってたのに」と思われてしまうのではという懸念がある。もう一つは、私も部活とかの使い方をはっきりしないと、ふらっと来て、中高生が誰でも使えるという所とちょっとズレるような気がする。少しでもグループとして使いたい人はネットを見るけど、ふらっと来る人たちはホームページを見てこないのではないか。そこは予算がついたのだから少しイメージして考えていかないと、ダメだったから止めるというのは違うし、マイナスに働く事が多い。最初に投げかける物を上手く生かす為には、そこはちょっと丁寧に想定してはいかんか。それともう一つ、実行委員の中高校生はどれくらいいるのか。

田中係長：周知の所は、(二階堂親和会)永井会長にご説明をして、町内会に話していただき、問題無かったと報告受けている。また、近隣の町内会には説明してもらい、「素敵な事だね」という前向きなお言葉を聞いた。地域の利用団体、利用市民の方に関しては、電話が繋がる方はお電話では説明している。後は、来月に説明会を開く予定。そこで詳しく説明できればと考えている。工事が始まる際は周辺の住民の方にはポスティングなどで周知したい。

加藤会長：そうですね。せっかく素晴らしい事業なので、地域の方が理解してもらうのが良い。あと実行委員会のメンバーを教えてください。

下釜職員：実行委員は7名程で市内の中高生。今日は欠席だが、小熊委員もメンバーの一人。昨日のクラウドファンディングのPRで回ってくれた三人は、第二中学校の生徒が二人と第二小学校出身で公文国際学園の生徒。三人とも女の子で第二小学校出身なので仲良し。後は鎌倉学園の男の子一人と清泉女学院の女の子が二人、第二中学校の男の子が一人で、地元の子ども達に参加してくれている。

加藤会長：優秀な子たちが参加してくれてる。

下釜職員：実行委員の子たちは議論もまとめてくれて、積極的に発言してくれている。最初は緊張していたが、今では仲良くなって、活発に発言してくれるようになった。

加藤会長：色んな子たちが、委員の中に入ってくると良い。膨らんでくるし、最初作る時には、こういうようなスタートということですね。

【オープニングイベントについて】

山里委員：ミカエル広場（青少年広場）に関して、小学生ももともと使っていた。その子たちがこの時間外に関しては今まで通り使えるとして、青少年会館には、学童も併設されているが、学童や小学生の利用がどんどん委縮していくような感じになってしまうのでは。それでは本末転倒だと思う。そういったところはどういう風に考えているか。中高生に関してはとてもいいものだと思うが、来る子は、限られている。正直懸念している。今日来る時に第二小学校も通ったが、駅から徒歩で20分くらいかかる。利用がどれくらいあるのかと思う。フラッと立ち寄ると言っても、バスをわざわざ乗って立ち寄るといのは、あまりないかなと思う。よほど計画してやるのかなということも心配している。チラシの資料の2の裏に、よりともサッカークラブの代表の方が、ここに出ているという事と、実行委員会の子もサッカーボールを持っている、ここで言う『サッカーで繋がりましょう』ってなってくると、アンケートで三千人と書かれてるが、サッカーしか出なかったのかという疑問がある。バスケットとかもあるが、大谷翔平がグローブ送って『野球やろうぜ』って言っているところで、子ども達も野球に関して興味がある子がいる。これが出来てしまうと、サッカー以外の子達が、遊び難くなったりしないかなという懸念が正直ある。さっきも話があったが、例えば、東京ドームとか野球以外のスポーツも出来るようにしてることもあり、そういったことを変えるっていうのは、相当な予算が必要かなとは思っている。それは上手く出来ないかなとは思っている。ただ、魅力ある場のように綺麗な物がないと、子ども達も来ないかなと思うので、この投げかけが、投げかけられた時に、喜ぶ場となるようにしたい。どうせ自分の趣味と合わないって、行ってもしょうがないなとなってしまうともったいない。サッカーという繋がりを持っていない子達は、逆に、室内に行くかもしれないが、宣伝の仕方を、考えていかないと、ちょっと心配。結局、今遊んでいる子達への説明が難しい。「僕たちは、もうあそこには高校生の物だから遠慮しておく。」ってなってしまうと、かわいそうだなという感じもする。小学校の立場からになってしまうが。また、プールもあるので、ミカエル広場で遊んでいてプールにボールが入るとプール管理は学校なので、学校がそれを取りに行っている。その管理体制とかどうなるのかなと思う。正直、厳しいと思う。限られた敷地の中で色んな世代が集まれる場所を作るといのは、非常に難しい。

下釜職員：小学生がカードゲームなどでロビーを使っていたりグラウンドも使っていることは承知している。学童に関しては青少年課が所管なので、連携を取りながらやっていこうと思っている。この施設はフレンドリー（デイケア施設）もあり、学童もあって、全世代が使うような施設になっている。ただ、中高生の居場所施設を視察に行った時に、まずは『中高生の居場所』としてあげないと、逆に中高生が来づらくなってしまう。子ども達が多いなら、小学生の子ども達が行く場所というイメージで固定化してしまうので、『中高生の居場所』なら『中高生の居場所』でPRしていった方が良いという考え方がある。ただ勿論、共存はしていく必要があるように思っているんで、小学生は20時までなどのル

ールを設けて共存を図りたい。この取扱いはどうするかは課でも協議をした。20時までには一緒にここで使えるようにしようと、そういった計画がある。

小林課長：小学生はどうするかは、今も使っている子がいるので、その子をわざわざ帰すのかどうかは運営していく中で上手く小学生の子が嫌な思いしないように対応したいと思っている。今、紙資料にあるように中高生の利用率、10代4%と書いてあるが、実際は3.5%くらい。過半数は大人の使用である。小学生は20~30%位いる。ほとんどは、放課後かまくらっ子の、学童、アフタースクールの子達が会館の部屋を使用し活動している。後、土日は、午前中はよりともサッカークラブの方がいたり、(平日の)放課後はサッカーゴールがあるので、ふらっとサッカーをしに来たりしている。平日の午前中はグラウンドゴルフの団体が2団体で、大人の方が使っている。多世代の方が使っているが、どこが弱いかと言うと10代。中学生、高校生が青少年会館を自分たちが行く場所だと思っていないことを課題と感じている。青少年会館のことを地元の方はフレンドリーと呼んでいるが、「フレンドリーって中学生場所なの？」って思っているようだ。そこを何とかしたいと思っている。だからまずは中高生の為の、例えば時間帯とかスペースとかそういった物があるんだよということを発信していきたい。ただ、今使っている方が遠慮するなど、そういう事は無いようになるべくしたい。特に小学生、高学年の子がカードゲームをやっているのは見て分かっているのでその辺は一緒に共存が出来るような手法を、それも大人側がというわけではなく、実行委員会の中高生と一緒に、どういう風にやったら上手くやっていけるかを考えていきたい。

加藤会長：難しい所。中高生が中々集まる場所が無いし、3%くらいしか来てない。どう付き合わせるか難しい。全国的にもそういう人たちの居場所が無いって事で、今回の居場所には期待を大きく、今回の考えるところ。20%くらいの小学生が来ているということと、共存しなきゃいけないという、実行委員会の中で伝えながら、中高生が中心にしないといけないかなと思う。

小林課長：リニューアルして終わりではなく、常に変わっていかないといけないと思う。まずはスタートさせて、これで完成形ではない。さきほど山里委員からも話があったが、一体どれくらいの人が来るのか、どういった具体的な使われた方がされるのかというのが分からない。他の自治体で、ユースセンターと呼ばれる施設が出来ていて、コンセプトは我々と同じで、中学生、高校生の為の居場所だが、軌道に乗るまでに5年は最低掛かっているという事を聞いている。変化し続けていくのだろうという事は考えているので、引き続き見守っていただきたい。

林委員：クラウドファンディングのチラシに『みんなのプレイグラウンド』支援をお願いしますと書いてある。『みんなのプレイグラウンドをパワーアップ』と書いてある。一番はこれなんだと思う。その次にその下に文字に書いてある「中高生が思いっきり」という順番ですよね。そして、中高生が一番多いのがサッカー、バスケなので、これをやりたいということなのではないかと思う。さらに、「子どもたちの育成のために」とも書いてある。中高生なのか、小学生も含めてすべての事なのか分からない。これから広めていく時に、まずは『みんなのプレイグラウンド』なんだということが第一くるのだと思う。今回のプロジェクトは中高生をターゲットしてるから、まずはこのグラウンドを整備するという思考の順番でないと、長続きしないと思う。中には中高生でも、テニスをはじめ、グラウンドを使う競技はいっぱいあるなかで、「なんでバスケ、サッカー？」と思う子もいるかもしれない。とりあえず人口の多い、サッカーやバスケをする為には、準備が必要なんだということで、地域の皆様にはお金を集めるにも、お話しをしていくのが一番いいのではないかと思う。「中高生、中高生」という風に言ってしまうより、まずは『みんなのプレイグラウンド』という言葉から入って、「実は今回は中高生がターゲットなんです」ということを出したらもっといい場合があるのではないかと思うが、もうチラシを作られてると思うので、お話しの中や、次の何かを作られる時に工夫されると良いと思う。

下山委員：ここに職員が一人いて、上に大学生がいるかいなかったりして事の説明があったが、常に大学生がいるの

か。

下釜職員：職員一人が 16 時以降開設時間にいるようにしたい。大学生に関しては、定期的にボランティアを募る形で、ずっといるわけではない。曜日を決めてやっつけようと思っている。お兄さんお姉さんたちが定期的について、中高生が「この人がいるから行こう」という子が出てくるといいなと考えている。

下山委員：私の想像だと、知らない中学生、高校生がバンドやって、いろんな場所で色んな事やってどうなるんだろうと思う。社会にはルールも必要。自由にとっても、そういった事をキチンと大人が指導、見ていかないと、危険な事があるのではと思う。委員に警察の方もいますが、その辺が県の所で凄く言われたのでちょっと心配になった。

下釜職員：月に 15 日ずつ 2 名の職員がいる。

加藤会長：とりあえずそれでスタートですけど、あるいは警察の方も、もしかしたら巡回してもらったりとか。

塩見様（園田委員代理）：可能。

加藤会長：そういう風な事も配慮頂けると、先の方はどうなるか分からないが、皆で協力しながらやっていくということで確認したい。

【フリースクール補助金事業】

加藤会長：予想以上にフリースクールの申請が多い。今認定されている施設は 23 カ所。これは鎌倉市内か市外か。

下釜職員：施設は、市外の施設も含めている。

田中委員：うちの学校の生徒がこれに応募するかは全然上がってこないの、よく分からない。学校の方でフリースクールに通っている事を保護者との連絡の中で掴む事はあるが、特にフリースクールに通ってますという報告はこない。中学校はフリースクールに何日通いましたよって情報があって出席扱いにするということはある。

山里委員：申請を確認しているのは、私は一人だけ。うちの学校では。

加藤会長：学校には報告はないのか。

石井委員：報告はあると思う。私横浜で支援しているが、フリースクールに通っていると出席扱いとなるので、学校との連携というのは取れていると思う。また、鎌倉市はすごい数の子ども達に通っているなと思った。フリースクール 23 カ所と認定されているという事で、多分、市内も含めて県内に沢山フリースクールがある。施設の認定基準が個人的には気になる。

小林課長：山里先生と田中先生からお話があった学校との連携の件で、フリースクールの補助金の申請は保護者の方が鎌倉市にするが、その前に鎌倉市は施設の認定をしている。その認定された施設に通うお子さんの保護者の方が申請するという手順になっている。施設認定する際の要件を要綱で設けているが、その一つに『学校と必ず連携してください、情報の共有をしてください』という事がある。だから、こちらに今保護者の方が、補助金申請されている方は、通っている施設側と学校と連携を取れていると、こちらは承知している。鎌倉市の方から学校に、この方がこのフリースクールに通われているということで申請がありましたという連絡はしていない。高校生は、色々な施設に伺ったが、高校生でフリースクールに来るのは非常に限られているという事をお聞きしていた。高校生で、フリースクールに来る方は、中学の時にその施設に行っていて、高校生になっても引き続き来る様な方がほとんどで、改めて高校生になり、つまづきがあって学校が合わないなと思った時にフリースクールを選ぶ事はあまり無いという事は、お聞きをしていた。今、11 名ほど高校生を認定しているが、その方達は通信制の高校に行っている方。義務教育の過程に不登校で、学校にあまり行けなくて、色々あり通信制を選ばれたけれども自力で履修することが難しい。となると、フリースクールの様なサポートをして下さる施設が、高校生の為にもあって、そういう所に通ってらっしゃるということで、そういった方

を認定している。

林委員： 今度、特例校ができる。また、校内フリースペースが3年間掛けて全部の学校に設けられると聞いている。フリースクールの補助金のおかげで、これから選択肢が増える事で、予想は立たないですが、子ども達の希望によっては「特例校に行こうかな」という方も出てくるのではないかなと思う。フリースクールの申請者の数はこれからプラスマイナスあるのではないかなと思う。今、鎌倉市内のフリースクールに通っているより、市外の方が多いという情報を頂いたので、これからこういう世の中なので、色々ところで変化が起きてくると思う。委員会側としては、特例校、フリースペースという所にも通えるということで期待していく。

加藤会長： 今、鎌倉市の中での特例校はどうなっているか。

小林課長： 令和7年度の開設ということで準備が進んでいると聞いている。

【全体についての質疑応答】

下山委員： 青少年会館を使うにあたって中学生高校生の親御さんから、来るまでの道筋が暗いという意見がある。そこは心配している。女の子の親御さんは特に「冬なんてとてもじゃないけど行かせられない。怖い。そこはどうなっているか聞いてほしい。」というお話を頂いた。鎌倉駅からのバスの便もあまり良くないし、街灯も無い。親御さんは当然心配なので、近くに住んでらっしゃる方はどうか。その辺は何か対策してくれるのか。

小林課長： 今すぐにはどの道のことを、市道なのか県道なのか、どの道のことを指しているか分かりませんが、確かに、暗い道に来るのは危ないというご意見は分かる。すぐには無理だが、様子を見ながら検討をしていきたい。

宮下委員： 居場所作りというのに興味がある。私も中高は学校に行ってなかった。フリースクールの補助金というのが神奈川で初めてで、私の時はフリースクールという選択肢を選ぶのは少なかったので、こういう補助金制度があるよと伝えてもらえると親御さんも嬉しいのではないかなと思う。こういう選択肢があるんだという風に思ってもらえると安心できるのではと感じる。クラウドファンディングについて、バスケットゴール、サッカーグラウンドマークの二つを挙げているのは私的には、寄附する人に向けてしていると思う。使う人というより、ここにお金使うよというのが分かりやすいように、この二つを挙げているのかなと思う。例えば「プレイグラウンドパワーアップしました」とすると、それはそれ用のチラシを作って、そうしたら寄附がまた来るのではと思う。

山田委員： 私は普段から居場所づくりを職業にしている。始める時はなんでもそうだが、全部は絶対出来ない。スモールステップで、できる事からやっていくことが大事。その結論として出ているのが今という事だと思うので、そこはやりながら色々確定したり改善したりとか、やらない、出来ない事とか、そういった所が、やっていく中で進むので、こうやってスタートする！となっていく事は、非常に楽しみ。私も実際開かれたらどんな物か興味がある。

塩見様（園田委員代理）： 3月11日付で戸部警察署から異動してきた。戸部警察署在職中は、関内が繁華街ということもあり、子どもの居場所について話す機会がなかった。私の所属する生活安全課は、悪いことをした子たちや家出をした子たち、行き場を無くした子たちが、犯罪に巻き込まれたり、犯罪を犯してしまうということがあるので、居場所づくりというのは本当に大事な事だと思う。皆さんの話をきいて勉強になった。

加藤会長： 国の方では大変な状況ですから、でも子どもをまんなかに置くって国は方針を出した。国はこども基本法、こども大綱を作ったので、それには地方自治体どう実現するかという事で鎌倉はやっていくので、これから色々動いていくと思う。鎌倉にもこれから子どもに関する事を作らなきゃいけない。今回は6月予定という事で、今日は活発な意見が出た。青少年課も大変だろうけど、皆さんも一生懸命、

協力出来たら思う。